

令和6年度事業報告

I 啓発活動の概要

少子・高齢化、国際化、情報化の急速な進展、人々の価値観や生き方の多様化などに伴い、人権課題は複雑化・多様化しています。インターネットによる人権侵害、職場や学校でのハラスメント・いじめ等に加え、社会的養護を含めたこどもの人権、外国人や性的マイノリティの人権や性暴力の問題など、様々な人権侵害が社会的関心を集めています。

また、インターネットの普及に伴い、その匿名性や情報発信の容易さから、個人のプライバシーを侵害したり、差別を助長する表現を掲載したりするなど、人権に関わる様々な問題が発生していることから、当協会では、「インターネット上での人権侵害」の防止に向け、情報リテラシーの向上や人権尊重の意識の醸成等が図られるよう、関係機関との連携・協力を行いながら、幅広い世代や立場等に配慮した啓発活動に取り組んできました。

しかしながら、「人権に関する県民意識調査（令和5年度）」の結果をみると、人権に関して、知識としての理解は県民に広まりつつあるものの、年代等により人権意識に差があり、また自身の問題として理解し、行動に結びつけているかという点では、いまだ十分とは言えない傾向がうかがわれます。

そのため、令和6年度においても、私たち一人ひとりがお互いの人権の尊重を感性として育み、日常生活の中で人権尊重が自然に態度や行動として表れるよう、創意工夫をこらした啓発活動を推進することとし、幅広い世代（特に若年層）に対して、接する機会の多いインターネット等の啓発媒体の特性を活かした啓発活動を強化するとともに、県内各市町、人権関係諸団体はもとより県民の参画と協働のもと、「兵庫県人権教育及び啓発に関する総合推進指針」に基づき、「ひろげようこころのネットワーク」をスローガンに、「人権文化をすすめる県民運動」を推進し、①人権に関する理解や認識を深める人権啓発を進める、②人権を身近に感じ、一人ひとりの感性に訴える人権啓発を進める、③幅広い世代（特に若年者）に対する人権啓発活動の充実を図る、の3点を活動の重点とした人権啓発事業を積極的に展開しました。

II 公益目的事業

1 研修事業

(1) 県職員研修の実施

県職員を対象とした職階別研修（幹部職員、推進員・監督職員等）を実施した。

・実施回数2回（一部オンライン開催）

区分	研 修 会	R 6 参加人数	R 5 参加人数
県	幹部職員研修（12月5日人権のつどい） ※オンラインを含む	426 人	351 人
	人権研修推進員及び監督職員合同研修 （7月24日～8月31日）※オンライン 人権啓発ビデオ配信は実施期間中の火曜日及 び木曜日 ※10時00分～16時00分	707 人 （内訳： 本庁 462 人、 県民局 245 人）	906 人 （内訳： 本庁 614 人、 県民局 292 人）
	合 計	1,133 人	1,257 人

(2) 市町職員研修の実施

市町の人権啓発担当者を対象とした研修を実施した。

・実施回数：3回

区分	回	R 6 (実施日)	講 義	R 6 参加人数	R 5 参加人数
市町	第1回	5月28日	・講義Ⅱ「人権問題に係る現状と課題」 県民生活部総務課人権推進室 ・講義Ⅲ「部落問題の現状と人権啓発の課題」 関西大学名誉教授 石元 清英 ・グループ協議「人権研修を実り多きものにするために」 (公財) 兵庫県人権啓発協会	78人	72人
	第2回	12月5日	「人権のつどい」として実施	35人	35人
	第3回	1月31日	人権啓発ビデオ「あなたのいる庭」の 活用法について 講師：古田 圭策（人権啓発協会）	85人	72人
	合 計			198人	179人

※ オンラインで開催した研修会のアンケート総合評価では、
「非常に良い」「良い」との回答が、67.1%であった。
(前年度は74.7%)



関西大学 名誉教授 石元 清英 氏

(3) 企業人権啓発研修の実施

企業の経営者・人権担当者等を対象とした研修を実施した。

・実施回数：3回

R 6 開催回数	R 6 参加人数	R 5 開催回数	R 5 参加人数
3回	133人	3回	195人



明石市役所職員 増原 裕子 氏

回	開催日	参加者	開催場所	講義内容等
第1回	9月26日	66人	ホテルクラウン パレス神戸	「LGBTQ+フレンドリーな取り組みがもたらす企業価値の向上&社員の働きがい UP～パートナーシップ制度を始めとするLGBTQ+関連の最新動向～」 講師：増原 裕子（明石市役所職員）
第2回	1月22日	54人	西脇市茜が丘 複合施設 Miraie 多目的ホール	「“ビジネスと人権”に関わる課題から～公正採用と人権、LGBTの理解と配慮支援について～」 講師：芝本 正明 大阪企業人権協議会「企業人権協サポートセンター長」
第3回	2月5日	13人	のじぎく会館	「社会的孤立・孤独の軽減と予防」 講師：学校法人追手門学院大学 初等中等教育長 浦 光博

(4) 講師派遣

① 特定職種従事者研修への講師派遣

教職員、警察職員、消防職員、医療・保健関係従事者、福祉関係従事者など、高い人権意識を身につける必要のある職種を対象とした研修に講師を派遣した。

R 6 開催回数	R 6 参加人数	R 5 開催回数	R 5 参加人数
15 回	1, 140 人	19 回	1, 550 人

② 住民研修や企業研修等への講師派遣及び紹介

市町や企業、団体等の依頼に応じ、講師の派遣及び紹介を行った。

R 6 開催回数	R 6 参加人数	R 5 開催回数	R 5 参加人数
86 回	5, 600 人	65 回	4, 866 人

(5) インターネット・モニタリング事業の実施

インターネットでの差別を助長するような悪質な書き込みのモニタリングを実施するとともに、市町職員研修を実施した。

・実施回数：2回

回	R 6 (実施日)	講義内容	R 6 参加人数	R 5 参加人数
第1回	5月28日	「インターネットに反映される人権問題」 講師：公益財団法人反差別・人権研究所みえ 常務理事兼事務局長 松村 元樹	76 人	71 人
第2回	1月31日	①演題：行政における差別動画削除の取組 京都弁護士会 川嶋 将太 ②各市町情報交換会 ・モニタリング事業の実施状況や現状の課題について情報交換した。	82 人	63 人
合 計			158 人	134 人

※第1回市町研修およびインターネット・モニタリング事業研修アンケートの総合評価によると、「非常に良い」「良い」との回答が93.9%あり、概ね満足度の高い結果となった。（前年度は88.1%）

2 啓発事業

(1) 「ひょうご・ヒューマンフェスティバル2024 in 南あわじ」の開催

「人権文化をすすめる県民運動」を推進するために、推進強調月間である8月に人権啓発フェスティバルを開催した。令和6年度は南あわじ市において、澤穂希氏による講演会や体育館の特性を活かしたアリーナふれあいイベント等を実施した。

- ① 開催期日 令和6年8月24日（土）
- ② 開催場所 南あわじ市文化体育館
- ③ 参加者 約1,200人
- ④ 内容
 - ・人権講演会「いつも心にリスペクト」
澤穂希（元サッカー日本代表）
 - ・オープニングアクト（淡路人形浄瑠璃）、アリーナふれあいイベント、障害者スポーツ体験、人権啓発パネル展、子ども多文化共生イベントなど

ア オープニングアクト 淡路人形浄瑠璃
南あわじ市立南淡中学校郷土芸能部



イ オープニングセレモニー



ウ 人権講演会 澤 穂希さん（元サッカー日本代表）
「いつも心にリスペクト」



エ アリーナふれあいイベント



来場者と小林大使・澤さんとの「ふれあいタイム」

アリーナふれあいイベント参加者集合写真

(2) 「人権のつどい」の開催

毎年「人権週間の意義」を広く県民に周知し、人権意識の普及・啓発を図るために「人権のつどい」を開催している。令和6年度は、HYOGO ヒューマンライツ作品コンテスト表彰式、人権講演会等を実施した。

- ① 開催期日 令和6年12月5日(木)
- ② 開催場所 県立のじぎく会館 大ホール
- ③ 参加者 300人 ※オンライン視聴再生回数約120回
- ④ 内容 開会行事及び表彰式
 - ・小林祐梨子ひょうご人権大使開会宣言
 - ・主催者あいさつ
 - ・表彰式「HYOGO ヒューマンライツ作品コンテスト」
 - ・ハートフル人権ミニコンサート（大ホール）

- 出演者： さくらいりょうこ (Power Ocarina Player)
 曲目：エトピリカ 竹田の子守歌 ROSE いのちの歌
- ・人権講演会 (大ホール)
 演題：『ヤサシイハナ ヲ サカセマシヨウ』
 ～みんなで考える SNS の今と未来～
 講師：木村響子 (NPO 法人 RememberHana 代表理事/元プロレスラー)
 - ・人権パネル展、北朝鮮当局拉致被害者救出署名コーナー
 - ・人権に関する書籍販売等 (兵庫県人権教育研究協議会他)
 - ・同時開催「隣保館マルシェ」 (兵庫県隣保館連絡協議会)

ア 開会行事・表彰式



小林祐梨子ひょうご人権大使による開会宣言



「HYOGO ヒューマンライツ作品コンテスト」表彰者

イ ハートフル人権ミニコンサート



ウ 人権講演会



※当日参加者アンケートでは、ハートフル人権ミニコンサートは「満足だった」が97.7%、人権講演会は「満足だった」が95.5%、また「今後も行うべきである」との回答が100%であった。研修（県職員・市町職員）アンケートではハートフル人権ミニコンサートは「満足だった」が96.9%、人権講演会は「満足だった」が93.8%、また「今後も行うべきである」との回答が100%であった。

(3) 人権総合情報誌「ひょうご人権ジャーナルきずな」の発行

人権に関する様々な問題や課題について、専門家等の寄稿や県内各地における実践活動の取材、「ふれあいサロン」コーナーへの読者感想の掲載等により、県民との双方向性を持たせた情報誌として、ひょうご人権ジャーナル「きずな」を発行・配布し、タイムリーな情報を県民に提供した。

- ① 発行回数等 年6回(隔月刊) 毎奇数月15日発行 毎回 25,500部
- ② 構成 12ページ
- ③ 主な配布先 市町人権担当部局、県社会福祉協議会等の人権ネットワーク関係機関・団体、公共施設、銀行、郵便局、理容・美容室等



※11・12月号には、視覚障害のある人に「きずな」を活用いただけるよう、音声コードを印刷した。また、点字版で11・12月号の記事内容を200部発行した。読者アンケートでは、「きずな」を通して、人権問題についての関心や理解が深まったとの回答が100%であった。

(4) 「人権啓発ビデオ」の企画・制作

様々な人権課題を映像で提示し、人々の感性に訴えかけることにより、豊かな人権意識を身につけることを目的に、各種の人権研修会や学習会等での教材となる人権啓発ビデオ「あなたがいる庭」(テーマ:「社会におけるこどもの人権～こどもが安心して暮らせる社会の実現をめざして～」)を企画・制作した。



【作品内容】

阪神・淡路大震災で夫と幼い娘を亡くし、心を閉ざしたまま生きる主人公・和佳奈の唯一の拠り所は、自宅の庭で花や野菜を育てること。だがある日、大切に育てていたトマトの芽が何者かに踏みつけられていた。誤って庭に入ってしまったと謝罪に訪れたのは、児童養護施設・のじぎく園で暮らす実結(16)と怜央(9)。実結は自分たちが植え直すと申し出るが、和佳奈はそれを突き放す。

しばらくして偶然再会した実結と和佳奈。あの日の自分の態度を気にしていた和佳奈は、実結に「トマトの種を植え直すのを手伝って」と声をかける。それ以来、実結と交流を深

めた和佳奈は、震災で夫と幼い娘を亡くし、今でも自分を責め続けていることを打ち明ける。実結も、施設で暮らしていることで受ける偏見や、大学進学という夢を和佳奈に打ち明け、2人は互いに心を通わせていく。

実結に誘われてのじぎく園へ招かれた和佳奈は、園長の御子柴と、震災で母を亡くし、自身も施設出身だという児童指導員の松下からのじぎく園のことや、社会的養護のケアを離れたこどもや若者『ケアリーバー』について聞く。そして実結は、和佳奈になら話してもいいと、親から虐待を受けていたこと、音沙汰のなかった母親から突然会いたいと連絡があったことを明かすのだった。実結と母親が再会した日に、和佳奈は松下から「実結が帰ってこない」と連絡を受け――

【出演者】南野陽子、石田莉子、藤本健翔、窪塚俊介、ふせえり ほか

(5) 「人権啓発ビデオ」活用ガイドの作成

人権が尊重される地域づくりに向けて、市町住民研修や職場研修等で、ビデオ『あなたのいる庭』を有効に活用できるように、活用ガイドを作成し（5,000部）、ビデオを購入した市町や企業に対して、また研修会等において配布した。

(6) 広報媒体等を活用した啓発

① 新聞広告

「人権文化をすすめる県民運動」の告知(令和6年8月1日)

神戸新聞朝刊 1/3 ページ(全5段)カラー刷

② ラジオ放送(スポット広告)

人権に関する県内各地の様々な実践活動等を取り上げるラジオ番組においてスポット広告を行った。

ア 放送局 ラジオ関西 毎週日曜日「谷五郎の笑って暮らそう」番組内

イ 放送内容 「人権文化をすすめる県民運動」の周知を図るスポット広告放送

③ ホームページ

各種の人権に関する情報〔国、県及び県下市町の人権啓発の取組や、兵庫県人権啓発活動ネットワーク協議会等の関係機関、協会の事業に関する情報等〕を発信するとともに、県民からの意見や情報をキャッチできる双方向性のあるものにした。

④ 啓発ポスター

「人権文化をすすめる県民運動」の周知ポスターを作成・掲出した。

(作成枚数) 掲示用(7月) 1,300 枚

(配布先等) 市町人権担当部局、神戸地方法務局等の人権ネットワーク関係機関、各
県民局等



「ひろげよう こころのネットワーク」のロゴと、兵庫県人権啓発活動シンボルマークを描いた懸垂幕や横断幕を掲出し、「人権文化をすすめる県民運動」推進強調月間(8月)及び「人権週間」(12月)を告知した。

ア 掲出場所 県庁第一号館、県(総合)庁舎、市町村庁舎

イ 掲出箇所 8月 43箇所 66本
12月 17箇所 17本

⑤ 啓発パネル

啓発パネルを県・市町および関係機関・団体に貸し出し、啓発を行った。

⑥ 啓発グッズ

人権啓発グッズとして、クリアホルダー(A4:5,000枚)等を作成し、人権啓発イベント、研修、のじぎく会館来館者等に配布。

(7) インターネットを活用した啓発の強化

情報化の進展やペーパーレス化に対応するとともに、特に若年層に向けた啓発の強化を図るため、インターネットを活用した情報発信の強化を行った。

① ホームページのリニューアル

必要な情報に簡単にアクセスできるよう、各ページの整理・充実を図るとともに、「ひょうご人権ジャーナルきずな」の電子ブック化など、情報量の増大に対応するためのシステム強化を行った。

② SNSによる情報発信

各啓発イベントや作品コンテストなど、啓発事業を中心とした取り組みの情報を、特に若年層に向けて、親しみやすくタイムリーに提供するため、YouTube、X(旧Twitter)、Instagramにより発信した。



SNSでの発信 (Instagram)

(8) スポーツチームと連携・協力した人権啓発

① 阪神タイガースとの連携・協力

ア 阪神甲子園球場(西宮市)での人権啓発活動

・実施日 令和6年5月8日(水) 18:00〜 対 広島戦

- ・場 所 阪神甲子園球場(西宮市)
- ・来場者数 42,588人
- ・内 容 球場内大型液晶ビジョンでの人権啓発映像(法務省作成)の上映
人権啓発グッズ(クリアホルダー)を10,000部配布

イ 新聞広告等への写真・メッセージ掲載

- ・新聞広告、人権啓発グッズ(クリアホルダー)、ポスター・チラシ、「きずな」への掲載

ウ 人権メッセージ



オリジナルクリアファイル、きずな(7・8月号)、新聞広告、ポスターにメッセージと、ロゴ・写真を掲載。

② INAC神戸レオネッサとの連携「ウォーキングフットボール交流会」の開催(新)

こどもから高齢者まで、運動が苦手でも障害があってもプレーできるウォーキングフットボールを通じた交流を図ることで、思いやりや多様性を学ぶ機会とした。

- ・実施日：令和6年11月16日(土)13:00~15:00
- ・場 所：ノエビアスタジアム神戸フットサルコート(神戸市)
- ・参加者数：75人(家族・友人による12チーム)
- ・内 容：INAC神戸アカデミー選手(高校生)を交えたウォーキングフットボールの試合



(9) 「HYOGO ヒューマンライツ作品コンテスト」の開催(拡充)

人権問題に関する作品(文芸・動画・イラスト)を募集することにより、県民一人ひとりが人権問題について考え、豊かな人権感覚を身につける機会とし、応募作品のうち、優れたものについては表彰し、人権文化をすすめるための啓発に活かす。

【募集期間】文芸部門：令和6年6月3日(月)~9月6日(金)

動画部門・イラスト部門：令和6年6月3日(月)~9月27日(金)

【応募点数】文芸部門：313作品(創作分野13作品、随想分野227作品、詩分野73作品)

動画部門：13作品(5校)

イラスト部門：75作品(5校)

【入賞者】

<文芸部門>

賞名	分野	部	作者名(敬称略)	作 品 名
最優秀賞	創作		山下 洋	カミングアウト
	随 想		鯖 読駄	ボールペンの替え芯 ~Y先生のこと~
	詩		該当なし	

賞名	分野	部	作者名（敬称略）	作 品 名
優秀賞	創作	一般	阿部 忠彦	ともだち
		学齢	久保川 みゆ	1.5センチの命
	随 想	一般	片岡 紘	地獄の底から
		学齢	該当なし	
	詩	一般	該当なし	
		学齢	ひな	こころおと

*学齢＝学齢児童生徒（中学生以下）

<動画部門>

賞 名	応募者名（グループ名）	所属団体	作品名
最優秀賞	チームR	県立伊丹北高等学校 放送委員会	私の居場所
優秀賞	県立龍野高等学校 放送部B班	県立龍野高等学校	偏見のない社会へ
	チームS	県立伊丹北高等学校 放送委員会	1つの勇氣

<イラスト部門>

賞 名	応募者名（グループ名）	所属団体	作品名
最優秀賞	天文気象部	県立舞子高等学校	星空のもと、人類平等
優秀賞	山口 美咲	県立明石高等学校	幸せと悲しみの共有

<動画部門>



最優秀賞 県立伊丹北高等学校 チームR



優秀賞 県立龍野高等学校 放送部B班



優秀賞 県立伊丹北高等学校 チームS

<イラスト部門>



最優秀賞 県立舞子高等学校 天文気象部



優秀賞 県立明石高等学校 山口 美咲

(10) 人権ユニバーサル事業の実施（ひょうご・ヒューマンフェスティバルと同時開催）

障害のある人、外国人等の人権をテーマとして、民間団体等と連携して、参加型・体験型の啓発活動を「ひょうご・ヒューマンフェスティバル 2024 in 南あわじ」と同時開催した。

①障害のある人

ア ユニバーサルスポーツ体験

ユニバーサルスポーツ体験を通して、障害者や高齢者などの様々な人と共に生きることの大切さについての理解を深めるため、「ボッチャ体験」「卓球バレー体験」「パラスポーツ用具展示」を実施した。

イ 知的・発達障害等疑似体験

知的・発達障害者の気持ちを理解し、コミュニケーションの難しさなどを学ぶための疑似体験、色覚タイプによる見え方を疑似体験する色覚シミュレーションを実施した。

○卓球バレー体験



○パラスポーツ用具展示



○色覚シミュレーション



②外国人

外国人と共生する、多文化共生社会の実現に向けて、日本を含む、様々な国の民族衣装・楽器等の展示、体験等を実施した。

○子ども多文化共生イベント

○子ども多文化共生センター展

○子ども多文化共生教育フォーラム



(11) 大学生等への啓発

① ダブルクリアファイルの配布

障害のある人や外国人への理解を深め、人権意識を高めるための啓発デザインを印刷したダブルクリアファイル（約 5,000 部）を大学生に配布し、啓発した。

配布先：兵庫県立大学、関西学院大学、神戸学院大学、関西福祉大学 他

② 大学等と連携した学習会の開催

近年、多様化・複雑化する人権問題への県民（特に若年層）の関心と認識を深めるため、人権に関する講演会の機会を県内の大学生等に提供した。

人権講演会タイプ：県立農業大学校（R7. 3. 4）

人権ビデオ上映会タイプ：神戸学院大学（R6. 11. 22）



(12) 「ひょうご人権大使」による啓発

- ① 大使 小林 祐梨子 氏 (令和5年度就任)
小野市生まれ、加古川市在住。元陸上競技選手、北京オリンピック出場。現在、(一社)日本パラ陸上競技連盟理事、(一社)兵庫県陸上競技協会理事。
- ② 活動状況
ア 「ひょうご・ヒューマンフェスティバル 2024 in 南あわじ」開会宣言
イ ラジオ関西、Kiss FMにおける啓発活動、事業紹介
ウ 「令和6年度人権のつどい」開会宣言
エ 「ひょうご人権ジャーナルきずな」3・4月号寄稿

(13) 人権啓発企画展示の実施

県立のじぎく会館のロビー等において、啓発パネル展を行った。

- ① 令和5年度人権啓発ビデオ「大切なひと」ハートフルメッセージ展(4月～10月)
- ② 県民運動ポスター展(6月～)
- ③ 「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」ポスター展(12月)
- ④ ひょうご・ヒューマンフェスティバル 2024 in 南あわじ 講演会パネル(8月～)
- ⑤ 令和6年度人権啓発ビデオ「あなたのいる庭」ハートフルメッセージ展(10月～)
- ⑥ 令和6年度「人権のつどい」啓発パネル展(12月～)

(14) 市町連絡会議の開催

県・市町との連携強化、相互協力を図り、人権啓発活動を円滑に推進するため市町連絡会議を開催した。

- ① 実施日 令和6年4月24日(水)
- ② 参加 26市12町(全体数:29市12町)
- ③ 内容 各市町における人権啓発の現状と課題、当協会の事業等

(15) ひょうご人権ネットワーク会議による連携

「ひょうご人権ネットワーク会議」に参加する関係機関・団体と連携し、情報交換やイベントに関する情報の収集・発信を行った。

- ① 「ひょうご人権ネットワーク会議」の開催(令和6年12月5日)
- ② イベント情報の収集・発信(年2回)

(16) 情報・資料の提供

- ① 国・都道府県・市町等の啓発資料を収集し、「ふれあいルーム」で展示した。
- ② ビデオ、パネル、図書の貸出を行い、市町・関係団体等の支援を行った。

区分	ビデオ貸出	発行物転載承認	シンボルマーク使用	啓発パネル貸出
R6	255本	80件	1件	4件
R5	407本	71件	1件	4件

3 研究事業

(1) 人権に関する県民意識調査に係るシンポジウムの実施(新)

令和5年度「人権に関する県民意識調査」の結果を受け、喫緊に考えなければならない人権課題について、シンポジウムを開催した。

第1回となる本年度は、施設や学校関係者、いじめ・誹謗中傷の問題について研究している研究者をパネリストに迎え、令和5年度の意識調査で県民の関心が最も高かったインター

ネットでの誹謗中傷・いじめの問題等にも触れつつ、現在、子どもたちを取りまく環境について考察した。

- ① 開催日時 令和6年11月12日(火) 13:30~16:00
- ② 開催場所 県立のじぎく会館 大ホール
- ③ 当日参加 46人(当日の様子は、11月20日(水)からYouTube配信中)

(2) 研究紀要第26輯の作成

さまざまな人権課題について、より多くの方々が活用でき人権啓発活動に役立つ研究紀要を作成した。

- ① 作成部数 1,000部
- ② 配布先 県、市町、大学、県立学校等

(3) 人権啓発アドバイザーの活用

学識経験者等をアドバイザーとして委嘱し、ひょうご人権ジャーナル「きずな」の発行やビデオ制作、新聞広告の作成等、啓発事業の実施についての指導・助言を受けた。

- ① 委嘱人数 6名
- ② 専門分野 女性、こども、高齢者、障害者、同和問題、外国人、インターネット
広報・報道、人権教育、研修等

4 相談事業

(1) 人権相談の実施(拡充)

専任の相談員を配置し、来館相談、電話や電子メール等により、さまざまな人権に関する相談に応じた(ハラスメント、ドメスティック・バイオレンス、学校・職場での問題発言等)。

また、インターネットによる誹謗中傷等の入権問題について、弁護士による無料電話相談(面談は要予約)窓口開設(R5年4月~)、LGBT支援団体の専門スタッフによる無料電話相談(面談は要予約)、出張相談会(R6.7.21豊岡、R7.1.26神戸)、出前講座 10件

(2) 啓発活動についての相談等の実施

市町等が行う啓発活動の手法等についての相談等に応じた。

区分	人権相談	研修啓発活動	その他	合 計
R6年度	379件(225)	134件	95件	608件
R5年度	338件(190)	131件	130件	599件

※()は、インターネットによる人権侵害相談件数(内書き)

※R6年度人権相談のうち、弁護士相談50件(28)、LGBT相談84件(0)

(3) 保有する図書、資料の整理・更新及び情報発信機能の拡充

保有する図書、資料に関する情報をデータベース化し、図書室利用者の利便性を向上させた。また、平成28年4月から各市町の人権イベントをホームページ上で発信する「ひょうご人権情報バンク」を稼働し、県民等に広く周知を図った。

Ⅲ 収益事業

1 県立のじぎく会館の管理運営事業

県の指定管理者として、兵庫県立のじぎく会館の貸室業務や「ふれあいルーム」、「図書資料室」の整備・運営、施設の維持管理などの管理運営を行った。

(1) 会館利用状況 ※3月末現在

施設名	室数	利用回数(回)		利用人員(人)	
		R 6	R 5	R 6	R 5
大ホール	1	139	160	15,136	19,232
大会議室	1	190	175	9,333	6,356
特別会議室	1	72	107	566	718
中会議室	8	981	1,181	11,935	11,397
小会議室	4	303	303	2,028	2,040
合計	15	1,685	1,926	38,998	39,743

(2) 図書貸出し

令和6年度 78冊 (令和5年度 35冊)

2 人権啓発ビデオ等販売事業

(1) 人権啓発ビデオの制作

住民学習会や各種研修会等で活用できる学習・教材用啓発ビデオとして、「社会におけるこどもの人権～誰もが一人の人間として尊重される社会の実現をめざして～」をテーマに「あなたのいる庭」を制作した。

(2) 人権啓発ビデオの販売

人権啓発ビデオの有効な活用を図るため、制作ビデオの販売を業者に委託するとともにインターネット上での配信を希望する企業、団体に向けて、新サービス（ドラスタ）を実施している。

〈直近3年の年間販売状況〉

令和6年度 396本、令和5年度 354本、令和4年度 414本

〈直近3作品の販売状況〉

制作	R 6 「あなたのいる庭」	R 5 「大切なひと」	R 4 「バースデイ」
題材	社会におけるこどもの人権～こどもが安心して暮らせる社会の実現をめざして～	ネット社会における部落差別と人権～誰もが一人の人間として尊重される社会の実現をめざして～	性の多様性を認め合う～誰もが自分らしく生きられる社会をめざして～
R 6 販売数	156本	167本	32本
総販売数	156本	358本	303本

(3) 有料駐車場の運用

会館利用者の利便性を確保するとともに、協会事業の充実に資するため、有料駐車場の運用を図る。

IV 管理運営

法人の運営

(1) 評議員会・理事会の開催

協会の運営方針及び内容等を決定し、会務の円滑な推進を図るため、①協会の基本的事項についての意思決定を行う評議員会(評議員9名)、②協会の業務執行の意思決定を行う理事会(理

事 10 名)を開催した。また、協会事業について専門的立場から審議し提言する企画委員会、専門委員会を開催した。

○ 評議員会・理事会の開催状況

区分	開催日	出席数	議事内容
第 79 回 理事会	令和 6 年 5 月 30 日	7 名 (2 名)	・令和 5 年度事業報告について ・令和 5 年度財務諸表について ・企画委員選任について ・専門委員選任について ・第 27 回評議員会の開催について (報告事項) ・理事長及び専務理事の職務遂行状況について
第 27 回 評議員会	令和 6 年 6 月 25 日	7 名 (2 名)	・令和 5 年度事業報告について ・令和 5 年度財務諸表について
第 80 回 理事会	令和 7 年 3 月 6 日	7 名 (2 名)	・令和 6 年度補正予算について ・令和 7 年度事業計画について ・令和 7 年度予算について ・第 28 回評議員会の開催について
第 28 回 評議員会	令和 7 年 3 月 17 日	7 名 (2 名)	(報告事項) ・令和 6 年度補正予算について ・令和 7 年度事業計画について ・令和 7 年度予算について

開催場所：県立のじぎく会館

※ ()内は監事の出席数

(2) 企画委員会・専門委員会の開催

○ 企画委員会の開催状況

開催日	出席数	議事内容
令和 6 年 7 月 25 日	11 名	・令和 6 年度事業について ・今後の協会事業の取組について
令和 7 年 2 月 13 日	14 名	・令和 6 年度事業報告について ・令和 7 年度事業計画(案)について

○ 専門委員会の開催状況

名称	開催日	出席数	議事内容
研修	令和 6 年 7 月 17 日	10 名	・令和 6 年度研修部事業について ・各市町実施の人権啓発研修について
	令和 7 年 2 月 18 日	8 名	・令和 6 年度研修部事業活動報告について ・令和 7 年度度研修部事業計画(案)について ・各市町実施の人権啓発研修報告について ・令和 7 年度人権啓発ビデオの制作について
啓発・ 研究	令和 6 年 7 月 23 日	11 名	・令和 6 年度啓発事業について ・人権啓発の課題及び当協会に対する要望について
	令和 7 年 2 月 19 日	12 名	・令和 6 年度啓発事業活動報告について ・令和 7 年度啓発事業計画(案)について ・人権啓発の課題及び当協会への要望等について ・令和 7 年度研究紀要について

開催場所：県立のじぎく会館

(3) 情報公開等

協会ホームページ等を通じ、毎年度の事業計画、収支予算、事業報告書及び収支決算書等を公開することにより、協会の経営状況、事業内容等の県民への周知に努めた。

(4) 賛助会員の募集

県民や関係機関・団体に、人権尊重の理念への理解をより深め、協会事業に対する支援をいただくため、賛助会員を広く募集した。

(会員数 160 : 個人 96、企業・団体 64)